

## 松阪市新エネルギー推進委員会第1回木質バイオマス専門部会

日時： 平成26年8月20日（水） 午後7時00分～午後9時00分

場所： 松阪市飯南林業総合センター 会議室

概要： 1. 松阪市新エネルギー推進委員会木質バイオマス専門部会委員委嘱状交付  
2. 部会長の選任  
3. 木質バイオマス専門部会の設置について  
4. 木質バイオマスの活用率向上に関する意見交換  
5. その他

出席： 13名

（委員）4名

大西大輔部会長、中谷正則、川口伸、西川幸成

（アドバイザー）2名

三重県松阪農林事務所 森林・林業室 中村好範、北出満

（事務局）7名

川口環境生活部長、武田環境・エネルギー政策推進課長、磯田スマートワーク推進担当監兼環境エネルギー政策室長事務取扱、徳田環境エネルギー政策室主任、環境エネルギー政策室（世古）

竹岡林業・農山村振興課長兼飯高地域振興局地域整備課長、林業係（北垣戸）  
杉本松阪飯南森林組合参事

傍聴者：1名



〈議 事 等〉

1. 委嘱状の交付

市長代理として環境生活部長より委嘱状を交付

2. 部長挨拶

環境生活部長より挨拶

3. 自己紹介

部会委員及びアドバイザーより自己紹介、その後事務局より自己紹介

#### 4. 部会長の選任

部会長に大西委員を選任

#### 5. 議事

##### (1) 木質バイオマス専門部会の設置について

事務局より、昨年度策定した、松阪市バイオマス活用推進計画について説明するとともに、本専門部会の設置意義について説明し、名古屋大学大学院との業務委託を締結し、本専門部会の調査・検討と連携しながら具体的手法の構築を目指すことを説明。

事務局：

質問・意見等は。

質問・意見等なし

##### (2) 木質バイオマスの活用率向上に関する意見交換

事務局より、現場を担当する視点での意見、バイオマスを活用する視点での意見、森林を所有する視点での意見等、さまざまな意見を頂戴したいことを説明。

事務局：

意見交換をお願いしたい。

委員：

27年度から実施するためには議会承認が必要だと思うが、何月までに提案すればよいか。

事務局：

年内に具体的な手法・数字等の提案をいただきたい。予算計上に向けての市長論議が年明け早々、議会は3月にある。

委員：

支援策は相当なものを要望してよいのか。

事務局：

時間の区切りがあるなかで、それまでに出た意見を新エネルギー推進委員会に提案する。市長にもその都度報告が必要になる点を理解してほしい。ただし、金額の上限があるわけではない。

委員：

仕組みづくりは林業、環境どちらが主導とするのか。

事務局：

計画は環境・エネルギー政策推進課だが、予算を計上し事業を行うのは林業・農山村振興課になるかと思う。

委員：

例年から言えば、林業の予算枠は決まっていると思うが、それを超えるようなものでもよいのか。

事務局：

推進していくための予算であれば、断言はできないが、別枠で考えてもらえると思う。

事務局：

現在、木材の搬出には多大な経費がかかっていると思う。どこにどのような支援が必要か生の意見を聞きたい。高性能林業機械による搬出が困難な山から架線等による搬出が必要となってくるが、どれくらい経費がかかるのか。バイオマスの補助として350円が現在制度としてあるが実際どうなのか。

委員：

何はともあれもらえるのはありがたい。一方で350円か…という思いもある。昨年原木の価格が高騰し、バイオマスに流れていたものが市場に流れるなど、単価はシビア。バイオマスの7,500円という買取価格があり、その価格は綱引きになる微妙なライン。何をやっても7,500円になるならよいが、5,000円ではバイオマスへの供給に手を上げるか微妙。何をするにも7,500円がひとつのラインになるかと。

委員：

間伐も出すが、出すことによって経費が余分にかかる。それを出せるような仕組みを考えてもらうと、個人の山林所有者にとってもよいのではないか。

委員：

7,500円にプラスで350円なり500円なら出す人はいると思う。どんな方法でいくら出しますと言われないと生産意欲は湧かない。個人の山林所有者が木を出しても大量にはならないので、皆伐の現場や今まで山に置いてきたものをバイオマスに生かすことが必要。

事務局：

350円についても運搬のトラックの足しであって、搬出経費を対象としたものではない。搬出の支援策を検討するのも供給量を増やす一つの策ではないか。

委員：

高知県に先進事例がある。高知では「架線」による搬出が主流。この地域では、技術の継承に苦労している、また費用もかかるし、「架線」により木を出せる山も限られてくる。ある程度、値段がする山しか出せない。「架線」についての補助はないので1000mかけたところで補助金は出ない。我々も3班体制で間伐をしているが、間伐だけでは、バイオマスへの供給量には限りがある。また、皆伐をする場合は、認定材でないとバイオマスに供給できない。県や国の補助金にしても限界があるので、バイオマスに関連して何とかできないか。

事務局：

利用される立場としていかがか。

委員：

私どもはエンドユーザーの立場。サプライヤーの方については、材料を出すには全部一緒だが、我々は間伐か皆伐かで発電の買い取り価格に違いが出てくる。トレーサビリティの証明をするのがやっかい。手間は同じなのに買い取り価格値段が変わるのは気の毒だと思う。今後、バイオマス資源の供給量を増やすために期待される支援策は、大きく言うと3つあると思う。まず、搬出応援、次に運搬応援、最後に私どもになるが、受入を断らないことであると思う。エンドユーザーが不要といってしまうと流れが止まってしまう、いつでもどれだけでも受け入れられる体制が必要と考えている。そのあたりについて補助などの支援策をリンクして出してもらおうとよいのではないか。

委員：

よくわかる話、全くその通りだと思う。皆伐して市場へ丸太として流れるか、バイオマスに流れるか。値段がよければ市場、悪ければバイオマスという選択。だからバイオマスは7,500円のラインが重要になる。我々林業の関係者も死活問題なので、1円でも高いほうを選ぶ。丸太は手間がかかるが、バイオマスは手間がかからない。どれだけ金額が上がるかでバイオマスに流れるかが選択される。

事務局：

ほとんど全幹で出すのか。(全幹：根元から先まで1本すべて。)

委員：

皆伐だと全幹である。350円でも足しになることはなるが、出せる範囲で出してくださいとのお願いしかできない。

委員：

我々の仕事の使命は林業の下支え。

委員：

それは非常に大きい。7,500円以下の木は市場へ持っていけない、それをバイオマスのほうで処理できるのはありがたい。

委員：

市場は市場に出品する以上、手数料がいる。発電事業者の方から、市場に土地を貸してください、バイオマスのヤード作りましょう、そこへ木が入ってくる。売れ残ったものはうちが買って払うのもいいし、市場へ出品した手数料を補助するのもよい。できるだけ山の人のことを考えているが、発電事業者にも限界があるのは事実。大量に年間5000トン以上供給いただけるなどそういった人からは高く買うなど、そういったことは検討している。

事務局：

バイオマスに限った話中心だが、林業振興という視点ではどうか。

委員：

皆伐しないとイケない山はこの地域にいっぱいある。昔なら皆伐して、植えてという流れで林業が成り立っていた。今は木材が安いので、将来を考えて、お金をかけて再度植林するという考えにならない、植林に補助が出ないということもあるが、植えずに禿山にしておくことがある。そういうことから、植えるのに補助を出すという方法もある。心境としては、植林も下刈もないと梅雨時は仕事がない。植林をすると山のためにもなり、うまく回るのではないか。

事務局：

再造林（※皆伐をした後の山林に、植林をすること）は杉や桧か。

委員：

山に緑が戻ったらなんでもよい。植林の本数も少なくともよいと思う。

アドバイザー：

国のほうでも皆伐しないと素材がでないことは理解している。ただし費用がかかりすぎる。システムが大事。皆伐した人が植林できるように。

委員：

国ではなく県単位としても何か考えているのか。

アドバイザー：

考えているがなかなか難しい。

委員：

そこは県や市各単位で考えてほしい。

委員：

いつも「お金がない」で終わっていく。350円もらえるのはよいが、350円の補助を受けて、間伐をやろうとする場合のメリットが、補助を受けずに間伐をする場合のデメリットを上回らないとやらない。

委員：

山で伐採した木が平均10,000円/m<sup>3</sup>以上が見込めるなら原木市場に出し、平均10,000円/m<sup>3</sup>以下しか見込めない場合はバイオマスに出すという目安を持っている。最終的には、平均12,000円/m<sup>3</sup>になることを見込んで山林の伐採をしている。

委員：

バイオマスが12,000円だったら供給は増える。12,000円までいかなくても、9,000円や10,000円になったら相当バイオマスに流れる。60年物の杉が市場で平均12,000円しかしない。その現実考えると、12,000円以下でもバイオマスに流れるだろう。

事務局：

市場へ出るべき木が、バイオマスに流れるのは林業としてよいことなのか。

委員：

困った問題だ、特に地域の製材業は困るだろう。

アドバイザー：

理想を言うと、材として使えるものは材として使うべき。

委員：

木は集めるもののバイオマスに横流ししては市場が大変だ。7,500円は良いライン。

委員：

将来は値段が逆転すると思う。7,500円は絶妙な値段。我々の目的も林業振興。小丸太扱っている業者が倒れてはいけない。バークを買って助けるなどの支援が必要。

アドバイザー：

全体の素材生産量を増やさないと、同じパイのなかで取り合うだけ。

アドバイザー：

パイが増えても、高いところへ高いところへの傾向は変わらないだろう。

アドバイザー：

間伐もどんどんやりにくい場所になってきている。増やそうとすると皆伐をしていくしかない。

委員：

皆伐への補助をもっと出したらよい。木を循環させないとこのままでは良い木も台風でこけていくだけ。6月にしっかり仕事ができるようにしてほしいといつも行政に言っているが返事がない。

委員：

すべての造林・間伐事業（補助事業）が単年度の予算で動いているが、それが3年5年でまわれればもっとうまくいく。

委員：

その通りだと思う。

委員：

ユーザーとして、バイオマス林ができるなら、植林のために我々もお金集める。いろいろな企業が植林のお金を出している。それに植林補助金の積み上げを行う等の工夫が出来るとよいと思う。

委員：

それをやってくれたら皆伐が進む。後が気になって伐採できない人はいっぱいいる。

委員：

国のガイドラインでやっていたら絶対つまる。

委員：

森と緑の県民税はこちらへ引っ張れるのか。県の言いなりばかりになっていないでそういったことが検討できないのか。

アドバイザー：

税の使い方の趣旨に合っていれば充当することは可能だと思う。

委員：

県民税も5年では終わらない、2期10年は続くだろう。財源としてはそれをうまく活用するのがいちばんよいと思う。

委員：

可能性があるのは、2年後に電力自由化になる、つまり電力会社を選べる時代が来る。我々が発電所を建設しようとしたときは全国に20社しかなかった、今は8,000社になった。FITで何がいちばんおいしいかというと、サーチャージ料があるからである。買取価格を上げる財源の原資としてはそういったものを考えている、買取価格が上がって行けば林業振興にもお金が循環すると思う。

委員：

7,500円は、他県に言わせると「よくそんなお金で買っているな」と言われるくらい高い。

事務局：

いまさまざまな意見をいただいた。専門部会の意義がある。次回からは、名古屋大学環境学研究チームを交えてよりかたちになるような議論をしたい。本日の議事は名古屋大学に報告する。次回会議を9月下旬までにしたい。最後になにか「これだけは」という話があれば聞かせてほしい。

質問・意見等なし

### (3) その他

事務局より、他に意見等はないか。

質問・意見等なし

以上にて終了